

第4学年国語科学習指導案

平成30年5月9日(水) 5校時

4年2組 児童数24名

指導者 才市 美奈 印

1 単元名 「説明のまとまりをとらえよう ～びっくり!生き物リーフレット交流会～」

教材名 「ヤドカリとイソギンチャク」(東京書籍4年)

【身に付けさせたい資質・能力及び設定した言語活動とその設定理由】

○段落と段落の結び付きを考えながら読み、説明のまとまりをとらえる力

○意味段落を意識してリーフレット(紹介文)に書くことで、説明のまとまりを考えながら読んだり、作文を書いたりすることにつながるため

2 単元について

単元観

○指導事項「イ 目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」と「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」

○本単元で、段落と段落の結び付き(意味段落)を理解させ、説明のまとまりを読み取る力を身に付けさせる。

○本教材は、始め・中(作者の3つの問いとそれに対する答え)・終わりの構成が分かりやすく、「次に」「実は」「では」などの接続語をおさえながら段落どうしのつながりをとらえ、ヤドカリとイソギンチャクの相互の関係に目を向けやすい文章である。

○言語活動は、「自分がびっくりした生き物のリーフレットを作り交流会をする。」これは、生き物について書かれた本を読み、「共生する生き物について、説明のまとまりを意識してリーフレットで紹介し合う」というものである。

児童観

○3年生4月「自然のかくし絵」では、形式段落ごとに大事な言葉や文に気をつけながら読み、内容を正しく読み取る学習をし、11月「もうどう犬の訓練」では、さらに、文章を読んで書かれていることを要約する学習を経験しているが、大事な言葉や文に着目して正しく内容を読む力が十分身につけていない児童もいる。

○昨年度1月の標準学力調査の結果を見ると、「読む」領域の『与えられた情報を読み取り正確に伝える説明をする』問題で目標値を若干下回っていて、正しく読み取り、相手に伝えることに課題が見られる。学習場面においても質問の内容を聞き取って答えることができない児童がいて、正しく聞き取る力、読み取る力を身につけていく必要があると感じている。

指導観

○第一次では、ヤドカリとイソギンチャクの写真から生き物の関係に興味を持ち、その関係を明らかにしていくために「説明のまとまりをとらえること」を付けたい力として学習のねらいをつかむ。そのために、これからどのような学習が必要なのか既習事項をもとに学習計画を立てていく。

○第二次では、教材文全体を始め・中・終わり、さらに、中の部分を問いと答え、話のまとまりや接続語に注目して3つに分け、見出しをつける。そして、問いに対する答えの内容や言葉の動作化を通してヤドカリとイソギンチャクのお互いの利益を読んでいく。また、「互いに助け合って生きている」という共生の関係を伝えるために文章のまとまりの順序を入れ替えることや削除することについて考えながら読み話し合う中で筆者の説明の展開の良さに気づかせたい。並行して、生き物の互いの関係に注目しながら読書をしていく。

○第三次では、並行読書してきた本の中から自分がびっくりした生き物について、説明のまとまりを意識して問いと答えの形でリーフレットに書いて、交流会をする。

3 単元の目標

- 生き物の関係に興味を持ち、その関係を明らかにするために意欲的に文章を読むことができる。 【関心・意欲・態度】
- ◎中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考えながら文章を読むことができる。 【C 読むこと イ】
- 生き物の関係に注意しながら本を読み、文章の要点をつかんでリーフレットにまとめることができる。 【C 読むこと エ】
- 指示語や接続語を手がかりに文や段落相互の関係をとりえて文章を読むことができる。 【言 イ(ク)】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
①生き物の関係に興味を持ち、その関係を明らかにしようと意欲的に文章を読もうとしている。	①中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を意識しながらヤドカリとイソギンチャクの関係を読んでいる。 ②生き物の関係に注意して文章を要約しながら読んでいる。	①指示語や接続語が文と文や段落相互の関係に果たす役割を理解している。

5 指導と評価の計画（全9時間）

		主な学習活動	評価規準【評価方法】	学び	評価
第 一 次 1	1	・学習のねらいをつかみ、見通しを持つ。	・ヤドカリとイソギンチャクの関係に興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。【発言・ノート】	主	関①
第 二 次 5	2	・文章構成（始め・中・終わり）（問いと答え、接続語を意識しながら分け、見出しをつける）を考える。	・話の内容や接続語に注目してまとまりごとに分けている。【発言・ノート】	対	読① 言①
	3	・ヤドカリがイソギンチャクを付けている理由と付ける方法について読む。	・中心となる語や文に注目してヤドカリがしていることを正しく読んでいる。【発言・ノート】	対	読①
	4	・イソギンチャクがヤドカリに付いている理由について考えながら読む。	・中心となる語や文に注目してイソギンチャクの利益を正しく読んでいる。【発言・ノート】	対	読①
	5	・互いに助け合っている関係を読み取り、まとめの段落の要点をとらえる。	・互いの助け合いを確認し、最後の段落の要点をまとめている。【発言・ノート】	対 深	読②
	6 (本時)	・まとまりの必要性や順序について考えながら読む。	・段落相互の結び付きに着目して、筆者の説明のまとまりについて理解している。【発言・ノート】	対 深	読①
第 三 次 3	7 ・ 8 ・ 9	・自分が選んだ生き物のリーフレットを作り、交流する。 ・単元をふり返り、身についた力を確かめる。	・段落の結び付きを意識して文章をまとめている。 ・文章を要約しながらまとめている。 ・単元で身に付いた力を実感している。【発言・ノート】	対 深	関① 読① 読②

6 単元構想図

身に付けさせたい資質・能力 《C 読むこと》【新学習指導要領】
 (構造と内容の把握) ア 段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
 (精査・解釈) ウ 目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約すること。

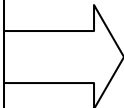


付けたい力に向けた言語活動

段落の結び付きを考えながら読み、説明のまとまりを意識してリーフレットに書き、交流会をする。

児童の実態

- 物語文で見出しを考えた際、書かれている内容をとらえて書いている児童が多かった。
- 何を問われているのか注意して聞き取ることに弱さが見られる児童がいる。



本単元で児童につけたい力

- ◎段落相互の関係をとらえて文章を読む力 【C (1) イ】
- 目的や必要に応じて文章を要約する力 【C (1) エ】

学習の流れと評価計画(全9時間)

主体的な学び

- 学習のねらいをつかみ、見通しを持つ。 1
- ・ 生き物の写真からその関係に興味を持ち、この学習で付けたい力をつかみ、学習計画を立てる。 【関①】

対話的な学び

深い学び

- ヤドカリとイソギンチャクの関係について説明のまとまりに着目しながら読む。 5
- ・ 文章構成(始め・中・終わり)(問いと答え、接続語に意識しながら中の部分を3つに分け、見出しをつける)を考える。 【読①】【言①】
- ・ ヤドカリがイソギンチャクを付けている理由と付ける方法について読む。 【読①】
- ・ イソギンチャクがヤドカリに付いている理由について読む。 【読①】
- ・ ヤドカリとイソギンチャクの関係を読み、最後の段落の要点をとらえる。 【読②】

本時

- ・ 段落相互の結び付きに着目して、筆者の説明のまとまりをとらえながら読む。 【読①】

対話的な学び

深い学び

- 自分が選んだ生き物のリーフレットを作り交流する。 3
- ・ 生き物の関係分かるように段落を意識してリーフレットにまとめる。
- ・ 交流会をし、単元をふり返り身についた力を確かめる。 【関①】【読①】【読②】

第一次 1 (導入)

第二次 5 (展開)

第三次 3 (発展)

並行読書



7 本時における研究テーマとのかかわり

本時の目標

段落相互の結び付きに着目して、まとまりの必要性や順序について考えることができる。

本時の評価規準

☆段落相互の結び付きに着目して、筆者の説明のまとまりについて理解している。

支援

※これまでの学習でまとめた表で構成を確認させ、順序の入れ替えや削除について考える手がかりとさせる。

深い学びへ向かう手立て

発 ヤドカリがイソギンチャクを自分の貝殻に付ける方法のまとまりはなくてもいいのではないだろうか。

軸となる言語活動

○まとまりの結び付きを考え、段落を入れ替えたり、削除したりして比べながら話し合う。

思考・判断

- ・入れ替えが出来るのか、なくてもいいまとまりはあるか話し合う。
- ・他のグループの意見を聞くことで、どのまとまりも必要であることや順序が正しいことについて考える。

表現

- ・グループで比べながら考えたことについて全体で伝え合う。

対話的な学びを実現するための手立て

発 まとまり2, 3, 4は入れ替えてもいいだろうか。なくてもよいまとまりはあるだろうか。

○表を用いて入れ替えをしたり、削除したりして元の形と比較することで、筆者の伝えたいことが分かりやすい構成になっていることに気づかせる。

8 学習の展開（全9時間）

第二次 5時間目（6/9）

(1) 目標 段落の結び付きに着目して、まとまりの必要性や順序について考えることができる。

(2) 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 ^発
見 通 す	1. 前時を振り返り、まとめの段落の要点を確かめる。 2. 本時のめあてをつかむ。	○筆者が伝えたいこと「ヤドカリとイソギンチャクは互いに助け合って生きている。」というまとめを確認させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 筆者の伝えたいことはどうして分かりやすいのだろうか。 まとまりの必要せいやじゅんじょについて考えよう。 </div>	
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 教材文全体の構成をおさえる。 【全体】 4. まとまりがあることの良さや順序の良さについて考える。 （1）入れ替えが出来るのか、なくてもよいまとまりはあるか話し合う。 【グループ】 （2）グループで話し合ったまとまりについて全体で伝えあう。 【全体】 5. 本時の学習をまとめる。	○これまでの学習でまとめた表（まとめや意味段落の見出しなどを明記）で構成を確認させる。 ※表を用いて順序の入れ替えや削除について考える手がかりとさせる。 ^発 まとまり2, 3, 4は入れ替えてもいいだろうか。なくてもよいまとまりはあるだろうか。 ○表を用いて入れ替えをしたり、削除したりして比べることで筆者の伝えたいことが分かりやすい構成になっていることに気づかせる。 ^発 ヤドカリがイソギンチャクを自分の貝殻に付ける方法のまとまりはなくてもいいのではないだろうか。 ☆段落相互の結び付きに着目して、筆者の説明のまとまりについて理解している。 【読①】（発言・ノート）
ま と め 振 り 返 る	6. 学習の振り返りをする。 【個人】→【全体】 家庭学習 自分が選んだ生き物のリーフレットを書くために、まとまりの順序を考えてノートに書いてくる。	○説明のまとまりの必要性や順序について、分かったことや考えたことを振り返りに書かせる。

9 資料

・教材文全体についてまとめた表 ・教師作成のリーフレット